

2005.7.12.

武庫川流域委員会 委員長 松本 誠 様

委員 法西 浩

委員会ではいつもお世話いただきありがとうございます。流出解析の討議がますます重要になってきました。流出解析についての試案（私案）を意見書として提出しますので、十分な検討をお願いします。

意見書 武庫川の流出解析について

- ・流出解析ワーキングチームの数回の会合に対して、活躍されたメンバーの方々に感謝申し上げます。
- ・計画対象降雨群の表（１）、（２）は科学的に作成されたものと認識する。
- ・私自身水文学の専門家ではないが、水文学成書で勉強した結果、（設定１）表（１）引伸ばし率2.0以下の案を、個人的に賛同する。
- ・表（１）の降雨群をピーク流量とパーセントとの関連を図1に作成した。図1により、カバー率70%は $3700\sim 3750\text{m}^3/\text{s}$ 、カバー率80%は $3940\sim 4000\text{m}^3/\text{s}$ を算出した。カバー率は70%が妥当と考える。
- ・また表（２）の降雨群39例を、 $500\text{m}^3/\text{s}$ 間隔で度数を図2に示した。図2から平均値 $m=2980\text{m}^3/\text{s}$ 、標準偏差の $\sigma=799\text{m}^3/\text{s}$ を求めた。 $m\pm 2\sigma$  (95%)は、 $m+2\sigma=4578\text{m}^3/\text{s}$ 、 $m-2\sigma=1382\text{m}^3/\text{s}$ となった。また、カバー率70%は $3700\text{m}^3/\text{s}$ 、カバー率80%は $3950\text{m}^3/\text{s}$ となった表（２）の上位2個の標本 $5045\text{m}^3/\text{s}$ 、 $4894\text{m}^3/\text{s}$ はともに $m+2\sigma$ (95%)からはずれる。
- ・委員会では、特定のピーク流量を提示するよりは、アバウトな数値を提示すべきと考える。
- ・流出解析の論議が進展しない場合、ソフト面の対策を審議すべき、と考える。

図1 引伸し対象降雨 表(1) 降雨倍率2.0倍以下のピーク流量 ピーク流量 (m<sup>3</sup>/s) とカバー率 (%)

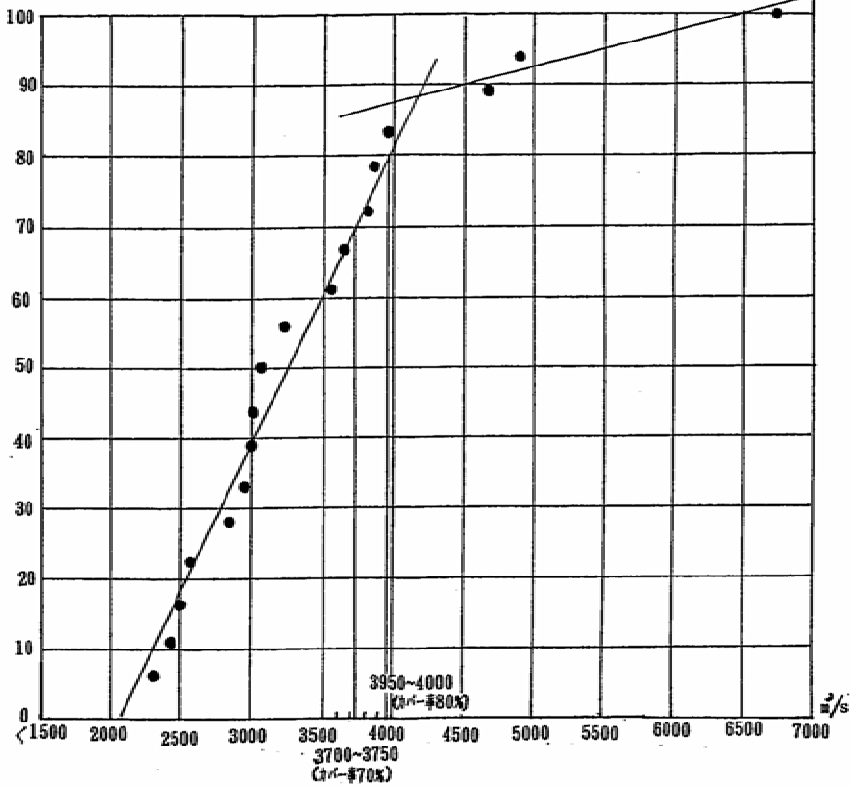


図2 引伸し対象降雨 表(2) 降雨倍率3.0倍以下のピーク流量 ピーク流量 (m<sup>3</sup>/s) と度数

